

ジュゴン Vol.64

ちゃんぷるニュース



2012. 10. 2

CONTENTS



- 2/3 韓国入国拒否レポート
- 4～ 特集・IUCN-WCC 濟州会議
- 6/7 ポスター&ナレッジカフェ
- ～9 カンジョン緊急決議案
- 10 県民大会呼応アクション
- 11 おきなわ便り
- 12 お知らせ

9月17日パネッタ米国防長官の来日で、日本政府はオスプレイの安全宣言を行った。安全確保策として、1) 固定翼モードの切り替えは基地上空で、2) 低空飛行は150m以上で、3) 夜間早朝訓練は最小限とすることを確認しました。機体が安全であるのに、なぜ事故が多発するのでしょうか。米国は岩国では試験飛行を直ちに行い、10月には普天間基地で本格運用を始める方針です。9月9日に「オスプレイ配備中止、普天間基地の即時閉鎖・返還」を掲げ10万人が参加した沖縄県民大会や1万人が参加した国会包囲行動などを全く無視するものです。ニューヨークタイムスは社説で「米軍駐留の負担を背負ってきた沖縄住民の古傷に塩をすり込むようなもの」と沖縄へのオスプレイ配備に反対しています。一方、前原民主党政調会長は米国防次官補との会談後に「来年早々にも環境影響評価書の補正作業を終えて、埋め立て申請に移る」と述べました。普天間へのオスプレイ配備と辺野古新基地建設が一体であることは明らかです。

2135人の賛同署名

11月政府交渉で提出します

9月6日から10日間、韓国濟州島でIUCN（国際自然保護連合）第5回世界自然保護会議が開かれ、153か国1万人が参加しました。今回ほど荒れた大会はありませんでした。SDCCの二人が入国拒否に会い、外務省やIUCNが韓国政府に抗議。大会では、濟州島カンジョン村の基地建設反対決議案をめぐる、NGOと韓国政府が激しい論争を行ったからです（9面参照）。カンジョン村の基地建設反対決議案については、IUCN決議の経験をふまえてアドバイスしました。IUCNウェブニュース13日付でも「SDCCはIUCN決議がマスコミだけでなく、自治体や専門家にジュゴンや生息地の保護への関心を持たせることができると信じている」と、IUCN決議の効果事例として紹介しました。

SDCCブースでは、9月9日県民大会に呼応してオスプレイ配備中止の宣伝をしました。オスプレイ・ノーのデコレーションをブースに飾り、スタッフは赤いリストバンド、帽子で活動しました。沖縄ジュゴン保護のためのIUCN決議履行を求めるチラシを配り、署名も2135人から賛同を集めました（4面～9面参照。チラシは同封）。10月下旬のIUCN報告会、11月下旬の政府交渉・署名提出で、オスプレイ配備中止・辺野古新基地建設断念の闘いに合流します。（事務局 蛭川義章）

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



IUCNの大会会場（4～9面）



オスプレイ配備反対のリストバンドをつけてのブース活動（4～9面）



ジュゴンとドラゴンの闘い! ~こらむ・コラム~

平和の神ジュゴンと、戦争の神ドラゴンとの闘いが、いよいよ最終決戦の時を迎えようとしている。その決戦場が沖縄の普天間基地であり辺野古ということになった。

米国は欠陥輸送機オスプレイを沖縄県民の意志を無視して普天間基地に強行配備しようとしている。そしてその部隊名が「竜」であるという。竜は龍とも書くが、人間が架空に想像し作り上げた「武力信仰」の神で、軍隊の神だ。

米国が形振り構わず「竜」部隊を日本本土にも押し付けているのだが、そのことに日本政府は反対できない立場にあるから厄介であった。何故なら敗戦後の日本は今日に到るまでずっと、米軍占領下の自治会組織と変わらないからである。従って自民党から民主党に政権が変わろうと何をしようと、実質米軍に支配されていることに変わりはなく、原発問題にしろ米軍基地問題にしろ、民意を汲み取って民主主義を生かすことの出来ない偽独立国家なのであった。

そんな日本に復帰させられた沖縄の怒りがそこにある。そしてさらに問題を複雑にしているのが、米国の政治を支配しているユダヤ選民思想下の米国軍産複合体の存在である。

米国とイスラエルが中東和平を解決出来ないのも、現在世界中のイスラム社会で起きている反米運動の原因も全て、「ユダヤ民族は神から選ばれた民族である」との誤解に基づいた、米国の戦争政策に対する反叛にあるのである。つまり、エデンの園を追放された民族がエデンの園でそそのかしてくれた蛇を軍隊の神ドラゴンにし、その強大な軍力で得てきた富をもって世界支配を目論んできたがことが、ここにきて反米の気運が世界中に高まってしまっていて困った状態にあるのであった。

そこで以前から狙いを定めてきた中国封じ込め戦略のための第一列島防衛線の核として、辺野古基地建設を進めようとしたが、沖縄県民の予想外の反叛に遭って、立ち往生してしまったのである。しかし死の商人の営業マン達は、今さら東アジアに於ける軍事戦略を停滞させ

ることも後退させることもできない。少なくとも米日韓軍事同盟が機能しているうちに、済州島の海軍基地建設、名護市辺野古の米軍基地建設、東村高江のヘリパッド建設、与那国島の自衛隊配備と陸海空基地化、そして宮古島市下地島の軍事基地化を何としても進めたいはずである。

そのために竹島や尖閣問題では日韓、日中国民の対立を煽りながら危機感を高め、アジアの不安定化とその恐怖を演出し、普天間基地へのオスプレイ配備を規定方針通りに強行してきたのが、米軍側の事情のようである。

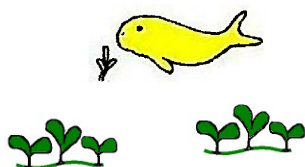
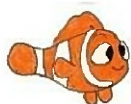
韓国政府が二度に渡って入国拒否したのも、今アジアが平和になっては困る米側の圧力が掛かってのことと理解するのだが、ただIUCNに皆と一緒に参加し、済州の人々に直接平和の神ジュゴンの話が出来なかったのは残念であった。

しかしその分、SDOCのメンバーが四・三遺族会との交流などを通して訴えたとの報告を受け、喜んでいる。そして今回の入国拒否問題で明らかになったことは、IUCNの目的が米軍支配下で著しく歪められてしまうという現実であった。この地球環境と生物多様性保全でもって人類の未来を救済しようとの崇高な人々の努力に対し、如何なる国の機関であろうと、不当な圧力を加えることがあってはならない。

IUCNは今後の方針として、ジュゴンが平和の神であること、旧約聖書の中で神から指定されている聖なる動物であることを深く認識し、今日の危機的状況に早めに対処策を打ち出すべきのように思う。そして沖縄全域が原初ユダヤの教えを正しく守っている聖地であることを、米国民と世界の人々に知らしめたい。そのことだけが、残された救済の道だと思ふのである。

とにかくジュゴンがドラゴンの迷信に勝つことは間違いないと思う。SDOCの仲間と共に、これからも訴え続けるつもりだ。そして10月6日は与那国で平和コンサートを行う予定である。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDOC 共同代表）





入国拒否の経過と対応

9月6日、IUCN（国際自然保護連合）第5回WCC（世界自然保護会議）参加のためにSDOC参加団が済州空港の入国審査に入ったとき、海勢頭豊代表と松島洋介スタッフが入国拒否されました。直ちに抗議し理由の開示を求めましたが、係官は入国拒否リストに載っている以外わからないと弁明。外務省の杉中地球環境課長とIUCN ジャパンの吉田会長を待って抗議を続けました。外務省、領事館から韓国政府に理由の開示と入国を求める働きかけをしましたが、午後7時30分の飛行機で二人は強制送還。外務省課長から謝罪の電話が私に入りました。

翌日の7日、IUCN本部に事情説明、二人の再入国を求めることを要請。IUCN本部は直ちに、韓国のIUCN組織委員会に対して、WCC参加者の入国拒否はIUCN規約ならびに韓国、済州島自治政府とのMOU（覚え書き）違反であると抗議。日本の外務省はこれをふまえて、韓国政府に再入国を働きかけました。時間切れとなりました。

私たちは10日の記者会見（IUCN記者会見室）で緊急の抗議声明を発表しました。

「二人はIUCNでポスターセッション、ノレッジカフェ、ブースなどで重要な役割を果たすために参加した。海勢頭代表は音楽家として、韓国、沖縄、日本の関係を良好にするために「トラジの花」（従軍慰安婦の問題）、「ハルラ山」（済州島4・3事件の悲劇）を歌ってきた。今回の事態について、「韓国の友人」として深い失望を表明している」

「韓国政府と韓国IUCN組織委員会に入国拒否の理由の開示と再入国を求める」（要約）（事務局 蜷川義章）



会議場での記者会見の様子



空港では大勢の案内係りのボランティアさんが出迎えてくれたのですが…。

こんな様子でした

入国カウンターで審査官が私のパスポート番号を打ち込むと、一瞬「おやっ？」という表情。そして次はにっこり笑って「こちらへどうぞ」と横の別室へ。別の審査官がいて再度顔面認証をして、「うむ」と何やら確信を得たようだ。

そして5分ほど。審査官のリーダーが来て「あなたは入国できません。今日19:30のKALで帰国していただきます。」もう帰りのチケットを渡された。手際よし。

「SDOCはIUCNのメンバーだ。入国拒否の理由は？」と問うても「ここではお話しできません。帰国後、大使館か領事館で聞いてください」との紋切型。

SDOCやIUCNジャパンの仲間が外務省まで動かし入国に尽力して下さった。しかし19:30のKALで関空へ強制送還となった。

同じく入国拒否された、海勢頭豊代表と関空近くのホテルに泊まり、近くで遅い夕食。海勢頭さんから、出版準備中の、沖縄、日本、韓国を結ぶ竜宮神（ジュゴン）と古代の平和の世直しを題材にした小説の話を知った。話は歴史、哲学、宗教を縦横に行きかった。食事は「韓国冷麺」でOK。「私は従軍慰安婦のため、『トラジの花』の歌をつくって歌ってきた。味方を拒否するとはな」という代表の言葉が胸に響いた。

みんなの帰国後拝見した写真に、アワビや黒豚など済州島名物をおいしそうにいただいている仲間の姿があった。私の無念の情がさらに深まったのは言うまでもない。

（関西 松島洋介）



＜大人気のジュゴン折り紙＞

連日、SDCCのブースは大賑わい！！何度も訪れるボランティアの学生が「このブースが一番きれいで賑やか」と言うほど、辺野古や海の写真やジュゴン折り紙、バナーやジュゴン・フラッグで華やかに飾られたブースでした。その上、女性陣は紅型衣装で更に華を添え、関西や首都圏から持ち込んだジュゴンマスコットなどのジュゴングッズは「キヨップタ、キヨップタ」（かわいい、かわいい）と韓国の子供たちの歓声だけでなく参加した世界の人達から好評で完売しました。とりわけ人気はジュゴン折り紙。折り紙をゲットした人が次の人を連れて来て・・・どんどんジュゴンの輪が広がり署名にも快く応じてくれました。紅型の衣装での記念撮影も大人気。ジュゴン保護を求める世界の人達のえがおが溢れるブースでした。

首都圏 宮城裕子

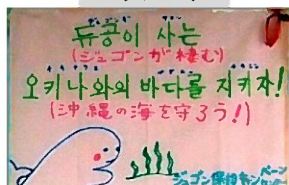


＜ブースで日韓友好＞

今回、ブース展示場は登録なしに無料入場できたので、連日地元の方たちでにぎわいました。ハングルで書いた「ジュゴンの海を守ろう」「基地ではなくジュゴン保護区を！」のバナーが大活躍。また、「ソミョンヘチセヨ(署名してね)」、「イゴプセヨ(見て行ってね)」と覚えてたのハングルで声をかけました。子ども達がしっかり考えて署名してくれたし、大人たちは「カンジョンの基地のことと同じ」と共感してくれました。日本に仕事や留学に来ていたボランティアも多く、堪能な関西弁の方にはびっくり。旧知の仲のような心安さを感じました。竹島(独島)問題を巡って、日韓が対立しているかの報道が流されていますが、一般の国民は互いの友好を願っていると感じました。

(関西 山根富貴子)

ハングルバナー



韓国国立公園のブースでレンジャーさんと



9/6～15、韓国、済州島で開かれた第5回WCC(世界自然「自然の回復力」をテーマに自然と人間の共存案について議バルセロナに続き3度目の参加です。過去に、3度あがってジュゴン旋風を巻き起こし、がんばってきました。



ブースで☆

＜ひととき目立ったブース＞

今回、3日間ですが、はじめてIUCNの大会に参加してもらいました。各国の政府機関とNGOの団体が150くらい集まるブースの中で、ひとときSDCCのコーナーが目立ちました。地元の小中高校生がジュゴンのマスコットや折り紙に人が集まり、「カワイイ」「キヨッタ(韓国語でかわいいの意)」の言葉が飛び交います。日本も韓国も若者たちは同じだなあという印象を受けました。

私も片言の英語でも楽しく人に働きかけられ、たくさん署名がとれました。SDCCの活動は創意工夫があり、何よりも楽しく相手に働きかけている。世界の団体にも自信を持ってアピールしていることに改めて感心しました。

3.11後の日本の状況に落ち込んでいましたが、この活動に元気をもらいました。私たち日本人を案内してくれた地元の学生さんとも知り合いになり、とても充実した日々となりました。

(首都圏会員 田中かつ子)

IUCN 親善大使のイルカさんと



自然保護会議) 世界約170カ国から1万人あまりが参加、
論しました。SDCCは、2004年バンコク、2008年

いるジュゴン保護勧告・決議を、こんどこそ実現するため



<ジュゴンちゃんの署名集め>

SDCCには2頭のジュゴンちゃんがいる、関西と東京で1頭ずつ。大舞台ではいつも関西ジュゴンちゃんが頑張ってくれます。今回のIUCNで、ついに東京のジュゴンちゃんが外交デビューしました。背中に署名のお願いのポスターを貼り、ブース前や会場を回り署名を集めました。嬉しいことに「かわいい〜」「一緒に写真撮って下さい」と注目のもと♥ ジュゴンが配るジュゴン折り紙も好評でした♪みんなに背中を押してもらってジュゴンロックもかいっぱい踊り、緊張の面持ちで記者会見の壇上にもあがりました。自他共に認める「ゆるキャラ」ですが、すぐに「ジュゴンだ!」と分かってもらえているようでした。バルセロナで記憶していた方も多かったのかも知れませんが、継続は力なり!! 県民大会に連帯して赤い紐型でオシャレしたのよ、可愛いでしょ。

(首都圏ジュゴンちゃん)



ロビーで★



ロビーで署名集め



ジュゴン折り紙 in 名札ケース。
会場で大はやりでした。



本会議場に入るたびに、入り口でチェックを受けます。はじめは怖そう、と思った警備の人たちも、ジュゴン折り紙にっこり♥ みなさん名札ケースに入れてくれました。

<エイサーでアピール>

今回3度目のIUCN参加となりました。エイサーの衣装に身を包み大会会場を歩いていると一緒に写真を撮ってくださいのリクエストもありましたが、やっぱり「ジュゴンちゃん」は人気を圧倒していました。冷房は効いているとはいえ、着ぐるみの中の暑さは大変なものだったでしょう。小平さん、正阿弥さんお疲れ様でした。

一番印象に残ったのはSDCCブースの人気ぶりです。クチコミで「折り紙ジュゴンもらえるよ」と伝わったのか、大会参加者、職員、現地のサポーターなどなどが連日押しかけていました。名札入れに折り紙を入れてあげ、サンキュー、カムサハムニダ、コマスマダと声を返していただきありがたかったです。会場警備が非常にうるさく音を出すエイサーのパフォーマンスが十分できなかった点は少々残念、次回の大会で再長ります。

(首都圏 有賀精一)





ポスター1

独自の視点で IUCN 委員注目のポスター

1つ目のポスターは「2回のIUCN 勧告と決議のその後—沖縄ジュゴン保護と基地建設—」と題し、6日間掲示され、9月8日には1時間半のポスターセッションを行いました。ほとんどの団体・行政・企業が活動紹介や地域紹介、研究報告だった中、IUCN 勧告と決議（以下、勧告）が沖縄ジュゴン保護に与えた影響という独自の内容で、一般の人をはじめ、特にIUCN 委員やメンバーに注目されました。

ポスターは沖縄ジュゴンの状況と勧告の説明を前置きとして、勧告後の非科学的な辺野古の環境アセス、日本・アメリカ両政府の動向、そして、アセスに対する沖縄県知事意見やジュゴン訴訟について書きました。現在のところ、勧告は基地建設の撤回とジュゴン保護の推進という政府の直接的な行動変化に結びついていません。しかし、専門家やメディアの注目を呼び、地元やNGOの人々にアセスに関わるきっかけを与え、それが5400以上の市民からのパブリックコメントや沖縄県知事意見、今の名護市の環境に重きをおいた地域活性化を後押ししていると結論づけました。

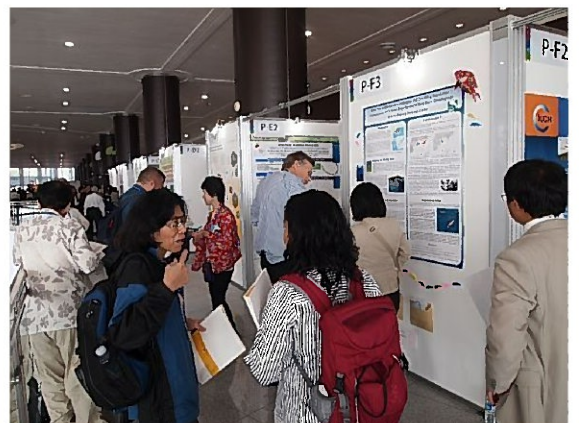


ポスター1

次はIUCNの大会で、基地建設計画が撤回され、沖縄ジュゴンの保護が本格的に始められた報告をし、世界の人々に軍事よりも環境や平和が大切なこと、多くの人が力を合わせ粘り強く活動することで社会を変えていけるという希望を示したいです。成功事例として沖縄ジュゴンを紹介することは、更なるジュゴン保護の後押しになるでしょう。そんな日を目指して、みんなで頑張ってください。 (関西 正阿爾(しょうあみ) 崇子)

ポスターセッション★

会期中、本会議場にふたつのポスターを掲示しました。



ふたつのポスターセッションとも、ジュゴン生息国の方、米ジュゴン裁判にかかわった方、沖縄在住でジュゴンと基地問題に興味があるという方など、たくさんの方でにぎわいました。

ポスター2

都市部のNGOとしての取り組み報告

2つ目のポスターでは、SDCCの国内での取り組み内容について紹介する発表を行いました。ジュゴンを取り巻く国内外の状況と、沖縄の状況などの背景を説明し、その状況を改善するために私たちが国内でどのような活動をしているのかを紹介しました。具体的には、大きく分けて都市部（首都圏、関西）での活動と、都市部から現地（名護市）を訪れて行う活動ということになります。都市部では、署名活動やフラッグキャンペーン、ジュゴンでトレインなどより多くの人に知ってもらい、折り紙教室や写真展などでじっくり考えてもらう取り組みを紹介しました。

現地を訪れての活動は、じゅごんの里ツアーです。毎年1回開催し、名護市を表敬訪問して情報交換したり、



ポスター2

座り込み現場でお話を伺ったり、船で海へ出て海草藻場やアオサングをはじめ、辺野古・大浦湾の様々な海の生き物を観察していることも紹介しました。

(関西 海聖頭聖)

ノレッジカフェ☆ 沖縄とフィリピン・パラワンの取組みから

SDCC のノレッジ・カフェのタイトルは「何がうまくいくのか、何がうまくいかないのか：ジュゴン保護の施策と戦略」。直前になって参加できなくなったプレゼンターがいて、その調整に苦労しました。しかし、NACS-J/沖縄 BD の安部真理子さんと、フィリピンのHaribon FoundationのMarivic Pajaroさんを中心に、自主ルールや海洋保護区というテーマで、じっくり話しを聞くことができました。

まずファシリテーターの正阿彌崇子さんが、SDCCの紹介とノレッジ・カフェの目的と進め方を説明。次に僕が、IUCN 勧告・決議と沖縄におけるジュゴン保護の現状に触れ、行政レベルの施策や計画と地域における実際の活動の関係について問題提起をしました。

安部真理子さんは、基地建設とジュゴンにより注目された辺野古/大浦湾の自然環境が、専門家により調査され、その生物多様性豊かな実体が解明されてきたことが、保護活動への基盤となっていることを示してくれました。

アオサンゴ群集について、その発見の過程も含め、写真や図を使っての分かりやすい説明がなされ、地域の住民、漁協、ダイビングショップ、リゾートホテル、科学



者/専門家による大浦湾における「自主ルール」に向けての取組みの現状と課題が紹介されました。また、保護活動におけるシンボルとしての「移動する」ジュゴンと「移動しない」アオサンゴの比較は興味深いものでした。

Mavivic Pajaroさんは、パラワンにおける海洋保護区推進の枠組みのなかで、彼女のNGOがどのように地域と密接な協力関係を構築しているかについて話してくれました。コミュニティー・オーガナイザーと生物の専門家がチームとなって地域に住み込み、3年程の時間をかけ、地域のリーダーと結びつき、コア・グループを立ち上げること、そして保護活動を地域行政の規則や条例へと繋げていくことの重要性が説明されました。

また、重要なステークホルダー（利害関係者）である漁師には、健康保険が無い等、様々なライフ・リスクがあり、そのリスク解決を視野に入れて海洋保護区を作っていくことが必要であるという話しは示唆に富んだものでした。

沖縄のジュゴンとフィリピンのジュゴンは、遺伝的にも非常に近い存在です。今回のノレッジ・カフェを踏まえ、沖縄とパラワンにおけるジュゴン保護や海洋保護の取組みについての情報交換が続いていくことが期待されます。
(沖縄 吉川秀樹)



ノレッジカフェは、大きな部屋でテーマごとに分かれて行う、少人数のグループミーティングです。

会議場正面玄関のすぐ横やロビーがステージに！歌と踊りがフォーラムを盛り上げました。

にじゅうまる柔軟体操



いのちの多様性とつながりを大切に、にじゅうまるプロジェクトの体操☆

ジュゴンロック!



カンジョン村のみんなや、通りすがりの人も一緒に楽しく踊りました。大注目されました!!

カンジョンダンス



カンジョン村の若者たち。素敵な歌と踊りで共感を集めました。



ピースコンサートin済州



“アジアから平和を” ととても楽しみにしていたピースコンサート。済州島4・3事件遺族会有志の皆さんとSDCCの共催で企画していました。豊さんの入国拒否で一旦コンサートはキャンセルされましたが、日本からの豊さんの思いと済州島の皆さんの支援、愛ちゃん路沙ちゃんのがんばりで少し形を変えて開くことができました。30人ほどの集まりで温かな交流の場となりました。コンサート開催に尽力して下さい安福子さんが「入国拒否をどう思われているでしょう」と心配され「ここで豊さんとコンサートを開けることを願っている」と話されました。私は過去の植民地支配を忘れてはならないし、今の竹島問題が気に掛っていたので、安福子さんの言葉にとってもほっとしました。「ザンの海」「月桃」「トラジの花」などを披露し、4・3事件犠牲者を追悼する「ハルラ山」はみんなで歌うことができました。気持ちが通じ合った瞬間！

日本のみなさんの支援とても嬉しいと自身の振付の“平和村”という踊りを披露して下さいました。思いは十分に伝わってきました。最後は“アリラン”をみんなで歌い、手をつなぎ輪になり踊りました。やわらかな空気が流れた時間。それは1つの小さな輪だったけれど、ここからアジアへ、世界へ平和がひろがっていく……。出会い、心を通わせ、笑顔で理解し合うこと、これこそ草の根外交！済州島と私たちをつないでくれた豊さんありがとう。その場に一緒に居たと存在を感じていました。交流会でのプルコギも美味しかったです。

(関西 池側恵美子)



安福子さんの教室の皆さんが踊りを披露して下さいました



安福子さん



WCC 会場となった ICC

(国際コンベンションセンター)



会場前の広場に
大きなトルハルバン
(石じいさん)



美女に囲まれたジュゴンちゃん



紅型着物で写真を撮るのが大人気



仲良しカップルも
紅型でペアルック♡



カンジョン村住民が提出した緊急決議

カンジョン村は第5回WCC（世界自然保護会議）の会場から7キロのところにあります。カンジョン川の下流にあり、みかん栽培などを行っている海辺の農村です。ここに海軍基地建設を進めようとしています。（ニュース3月号5面も参照）

基地建設反対住民は当初、IUCN（国際自然保護連合）本部に第5回WCC開催中止を求めていました。韓国政府批判のためです。その後、第5回WCCに「海軍建設中止を求める」緊急決議案を提案し、代議員への働きかけに力を注ぎました。ワークショップ、ノレッジ・カフェ、会場内外でのキャンペーンなど。IUCN本部もカンジョン村村長に会うことをしました。

海軍基地建設中止の緊急決議案は人権団体を中心に32団体の賛同で提出され、決議委員会に受け入れられました。この緊急決議案（Motion181）は議論不足のために弱点を持っていました。基地建設が自然の生態系を破壊するなど科学的な根拠を明示し、韓国政府に自然保護のための取り組みを要求する（勧告）決議案になっていなかったからです。SDCC 含む環境団体がアドバイスし、決議内容は整ってきましたが、政府側の過半数を取るにはまだ不十分でした。



本会議場ロビーでのアピール

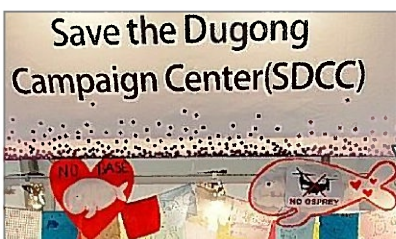
韓国政府は13日に「政府の環境アセスは合法だと最高裁で判決が出た。緊急決議案を採択することは間違い」とIUCNに圧力をかけました。14日本部は「緊急決議には瑕疵（かし）があるので取り下げる」との動議を本会議に提出しました。投票の結果、政府側は賛成多数、NGO側は反対多数で否決。委員会での継続議論になりました。最終日の15日、185本のうち未採決決議案が多く残る中、本部からMotion181の全体議論を提案。1時間にも上る議論の結果、政府側は反対多数（棄権も多かった）、NGO側は賛成多数でMotion181は否決されました。しかし、カンジョン村の基地建設反対の闘いが世界のNGOの支持を得たことは大きな意義がありました。すでに建設工事は始まっています。景気が低迷する中で、基地建設で経済振興を期待する済州島の世論を変える闘いこそ重要だと思います。沖縄の辺野古基地建設と同じ構図です。（事務局 蛸川義章）



ノレッジカフェ 右がカンジョン村の村長さん



署名集めがんばりました～☆



ブース上部に
NO BASE
NO OSPREY
のプラカードを
つけました

無料でコーヒーが飲める
くつろぎコーナー



韓国のお茶の作法を体験しました



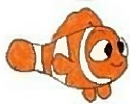
会議場から徒歩10分のペンション。最長9泊の長期滞在なので、ホテルではなく安い宿で合宿しました。



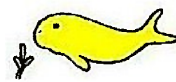
海鮮鍋に舌つづみ

オスプレイ反対沖縄連帯アクション

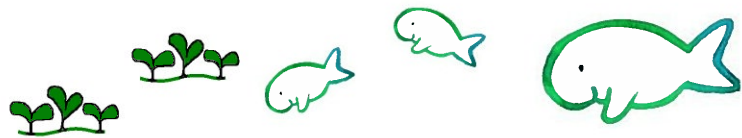
関西



8・5 呼応行動



首都圏



8月5日の沖縄の県民大会に呼応して関西でもオスプレイ反対の沖縄連帯アクションが大阪の西梅田公園であり、参加してきました。あいにく沖縄県民大会は台風の影響で9月9日に延期となりましたが、県民大会での統一カラーの赤に合わせて赤いプラカードを作って楽しくにぎやかにアクションしてきました。

IUCN 参加に合わせて作ったブルーのTシャツで揃えて参加しましたが、きれいな色の青が赤のプラカードや持ち物と合ってよく目立ちました。会場では1分間のアピールタイムをいただき、ジュゴン保護をアピール！「ジュゴンの棲む海にオスプレイは要らない！」各団体のアピールが終わってからアメリカ領事館まで抗議デモを行いました。

晴天ではありませんでしたが蒸し暑い日で汗を拭きながらたくさんの方が参加していました。それだけ関心の高さが伺えます。オスプレイが危険なのは周知の事実！飛行ルートも日本全国にまたがる為、これからも配備反対を訴えていきましょう！
(関西 上田千鶴)



残念ながら、台風の影響で沖縄との同時開催は出来ませんでした。沖縄からのメッセージで「5万、10万では少なすぎるという天の神様の声ではないかと解釈して、仕切りなおす」という声が印象的でした。

集会を終え、デモ隊出発。先頭から「沖縄を返せ、沖縄へ返せ」の歌が聞こえてきます。「オスプレイはいらない！」「沖縄にいない！」「岩国にいない！」と大勢の人々のシュプレヒコール。沖縄も岩国も厚木も横須賀も繋がっていると感じました。連帯という言葉が脳裏を横切ります。

宜野湾市出身の自分としては、こんなにたくさんの人々に支えられていると感動でした。(首都圏 伊藤一女)



先頭が見えないほどの長い列となったデモ行進

「国会包囲」に参加して



9/9 沖縄県民大会 同時アクション



「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」が9月9日、沖縄県宜野湾市海浜公園で開催され、10万人を超える人々が参加し、オスプレイ配備撤回、普天間基地の閉鎖・撤去を求める大会決議を採択しました。

東京では、「9/9沖縄県民大会と同時アクション『国会包囲』～オスプレイ配備は中止に追い込もう」が開催されました。猛暑の中、沖縄県民大会と同時刻に「国会包囲」アクションが行われ、1万4千人が人間の鎖で国会を包囲しました。

主催者挨拶で、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックの外間さんは「これ以上沖縄をばかにするな。命をかけ、身体をはって闘う。今日は闘いのスタート。ヤマトの力が必要です」と訴えました。また東京沖縄県人会からも挨拶がありました。(次ページへ続く) ➤

報告



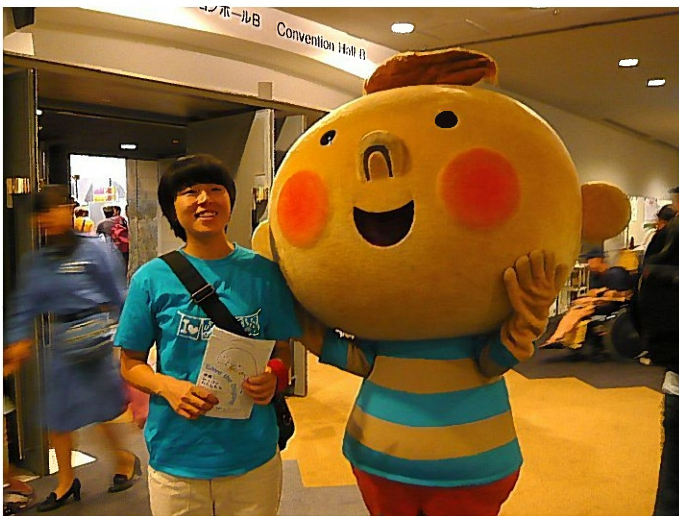
エコメッセ in ちばに参加して

9月17日に幕張メッセで行われた「エコメッセ in ちば」にブース参加してきました。

UCN会議終了からわずか3日後のイベントだったので、帰国したばかりのスタッフは「お疲れ様モード」でした。ですが、署名集めなど頑張ってきました！

署名は148筆も集まり、オスプレイ配備反対の署名は28筆集まりました。みなさんに署名のお願いをすると快く書いてくれる方が多く、また、以前SDCCの会員だった方に出会う事が出来ました。「ニュースの購読が途切れてたけど気になってたんだよ～」と声をかけてくださり再び会員になって下さいました。会員さんが増えることは本当に嬉しいことです。

会場には、企業や地元的环境保全団体、物産品などのブースを出していました。親子連れや子供達が多くとてもにぎわっていました。また、とても美味しい千葉県産のタコを使った蛸飯や梨を食べる事が出来て楽しいイベントでした。
(首都圏 鈴木陽子)



おきなわ便り

～ 沖縄のお月見 ～

私が宮古島で暮らし始めてもうすぐ1年。「沖縄」とひとくりに言っても各々の島で風習や言葉も違ってきます。

こちらで暮らす前は宮古島も那覇も辺野古も「沖縄」という感覚でいましたが、まずは島で一区切り？なのか、こちらで沖縄といえば「沖縄本島」のみを指すようです。沖縄県出身の方と会ったら「沖縄のどこ？」までを確認すると、いっそう話が弾むと思いますよ！

今年は9月30日が十五夜でしたね。東京ではススキを飾り、お月見だんごに季節の果物、栗やさつまいもなどを飾りました。宮古島ではススキは飾らないそうです。おだんごにかわり「ふきやぎ」というお供え物を用意します。

もち米を蒸して手のひらサイズの楕円に丸め、塩味の黒豆をまぶすシンプルなお味。豆は福を意味し、福がたくさん付きますように～という事だそうです。

年中行事は主に旧暦を使います。地元の風習を身につけ一人前の「ウチナンチュ（沖縄人）」になれるよう、日々奮闘中です♪
(沖縄 小平裕美)



集会の途中で、沖縄県民大会の情報が現地から入りました。「会場は人であふれ何人参加しているかわからない！」との情報に、参加者からは大きな歓声が上がりました。

「犠牲のシステム 福島・沖縄」の著者で、東京大学教授の高橋哲哉さんがマイクを持ちました。「これだけ長い間、これだけの基地負担を沖縄に押しつけてきたのは、日米両政府そして残念ながら日米安保条約を破棄できないでいる私たちの責任。沖縄で運動が不要になるくらい、本土の圧倒的な市民の声で、東京の政治を変え、沖縄の基地撤去を実現させなければならない」と訴えました。

参加者は、「原発はいらない」「オスプレイ反対」「高江を守れ」「辺野古を守れ」「住民を守れ」「ジュゴンを守れ」「海を守れ」「森を守れ」とコールを上げながら国会を包囲しました。
(首都圏 三村昭彦)



一万人を超える参加者で国会を包囲

IUCN会議へのカンパありがとうございました

カンパは海勢頭バンド二人分の宿泊・旅費21万円、ブース代14万円、チラシ代9万円に使わせて頂きました。また、赤字ですので、缶バッジや一筆箋購入にご協力をお願いします。



みんなの思いがこもった
1000枚のフラッグ

展示会場入り口を飾ったジュゴン♡フラッグ



ありがとうございました!



皆さんに描いてもらった1054枚のフラッグを展示会場テントの壁面に展示しました。フラッグの写真がIUCNのホームページやフェイスブックに載ったり、フラッグについて取材を受けるなど、注目されました。たくさんの人に見てもらえましたよ。

IUCN会議参加報告会

<首都圏>

日時：10月19日(金) 19時 開会

場所：品川区きゅりあん(品川区総合区民会館)
6階 中会議室

交通：JR京浜東北線 大井町駅 中央口より徒歩1分
東急大井町線 大井町駅 徒歩2分

参加費：500円(申込不要)

<関西>

日時：10月27日(土) 18:30~21:00

場所：弁天町市民学習センター・7階 第1研修室

交通：地下鉄中央線「弁天町」駅下車西口2番A出口、
JR環状線「弁天町」駅下車、北口
オーク2番街7Fへ

参加費：300円(申込不要)

【関西秋の予定】

11/3(土・休) 団結まつり@扇町公園

あわもり、日本酒のブースを出します

11/3(土・休) いのち紡ぐわたしたち

@四天王寺境内(無料) 10時~16時

SDCCは境内で、沖縄の写真家・牧志治さんの写真展示をします☆

Editor's Note

今年は強い台風が多くて驚きです。みなさんも怪我などの無いよう気を付けてください。(S)

チェジュでの会議が終わり、すっかり秋になりました。チェジュでの会議をしっかり振り返って、保護区作りへの更なる歩みを続けて行きたいです。(Y)

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.64 2012年10月2日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-21
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

